
二つに割れた星 ~ Sweet trip ~

Mix

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

二つに割れた星 Sweet trip

【Nコード】

N7562C

【作者名】

Mix

【あらすじ】

舞台は、二つの地に分かれてしまった星。『ツインアツイン』半分に分かれた片方の地“生”の地で生まれたリリイとリラはリリイの姉を探すため、もう片方の地“死”の地に旅立ちます。

第一話　二人の旅

「リラ！早く来なさい。」

リリイがいつもの様によく通る声でリラに言った。

「ええー！リイは早いんだよ、歩くのが早すぎんだよ！」

リラが文句を付けるとリリイはにっこりと笑ってリラの耳を思いつきりギユウっとつねった。

リラが、あまりの痛さに悲鳴を上げる。

「いだだだーいだい！いだあー！」

「ほら、またこうなりたい？」

リラの綺麗だった耳は赤く腫れている。リラは、腫れた右耳を押さえながら、言った。

「ひどいじゃないか！一緒に旅してんのに・・・！」

リリイが、うつと言って固まった。この二人の旅は、リリイの所為らしい。

「し、仕方ないでしょ！神々がお定めになった試練なんだから！！」

「はあ？神々？お前の姉さま、探しに来たんだろぅが！！」

リリイが言い訳でもするかのように乱暴に言い放つと、リラも負けずに答える。

「だ、だって・・・カノン姉さま、いなくなっちゃったんだもん・・・。 “死”の地に行くって出てたつきり戻って来ないんだもん！」

リリイの目には涙が溜まっていた。ずっと、ずっと我慢してきたんだろぅ。リラは、つつと声を漏らしさつきよりもまた乱暴に言った。

「だああああ！悪かった。悪かったよ！」

「うう、わかった。でも・・・何にもないよね？」

そうだ、リリイの言うとおり周りには枯れた草、乾いた土が見えているだけ。ここは、“死”の地。生き物の気配さえないところ。

「・・・あ！」

「リイ？どうしたんだ??」

遠くを見ていたリリイが大きな声を上げた。リラが、尋ねる。

「あのね、ほら！あそこ・・・」

「洞窟か？気づかなかった・・・」

二人は顔を見合わせ、よし、行こう！と声をそろえ洞窟へと走った。

「ほえー！あんまり深くないね・・・」

「いや・・・でも、何かが居たことは確かだ・・・」

リリイが素っ頓狂な声を上げると、リラは真面目に話し出す。

「なんで??」

「何にも気が付かないのか！ほら、布みたいなのがある・・・」

リリイがうんうんと相槌を打つ。リリイが、リラに言った。

「で、その生き物は？」

「んなの・・・分かるかー！！！！」

と、リラが叫んだそのときだった後ろから小さい声が聞こえた。小さい女の子のようだった。

「ли`п`・・・・・・?」

リリイが振り向くと、薄緑の髪に同色の瞳の少女が居た。言葉が通じないようだ。

「えっと、“死”の地の・・・」

「リリイ！そうだよ、きつと。すごい、すごい！えっと、君名前は・・・?」

リラは、少女に話しかけるが言葉が分からないので答えられないようだ。リリイは、両手を祈る形に組んだ。そして、何やら意味不明な言葉を唱える。

「リリイ、魔法って使っているのかな・・・」

「神・・・sin,commit・・・罪,language・・・記,remember・・・言・・・」

リラが、独り言のようにリリイに尋ねるが、リリイはなにやら唱えているので無理だった。

「よし、完璧！」

リリイが唱え終わり、安心したように言う。リラが、心配そうにリ

リイを見る。

「リイ？大丈夫・・・？」

「はあ？何よあ・・・昔みたいに爆発しないから！！」

リリイが、自信を持ってリラに言う。

「いや・・・なんか。って、あれその呪文・・・犯す罪ってあれ・・・」

「使用禁止の呪文だけど？それより、“死”の地の・・・」

リリイが少女の方を向く。少女は、二人の間にちょこんと座っていた。少女は、きよんとしている。リラは、言葉がわかるか話しかけてみた。

「ええと・・・君、名前は？」

「・・・なまえ？」

少女は、か細い声で答える。

「ない・・・」

少女は言った。リリイは瞳に悲しい色を浮かべすこしうつむいた。

「やっぱり・・・無いんだね？」

「うん・・・」

簡単な事なら分かるらしい。

リラが少女に言う。リリイは顔を上げた。そして大きな声で言った。

「あたしが、あたしが付ける！だって、呼ぶのに困るじゃない！！」

「はあ？リリイ？本^{マジ}気に？」

リリイが真面目な顔で少し怒ったように答える。

「本^{マジ}気に！」

リラは、はあ・・・とため息をついた。

「仕方ないなあ・・・早めにね？」

「ほ、ホント？いいの！？やったあ！！」

リリイは幼子のように無邪気な笑顔を見せた。つられて、リラも笑ってしまった。ついて来て良かった・・・と初めてリラは思った。

「えっと・・・ルルシア。ルルシア！今日から、あなたはルルシアよ！！！」

「るるしあ？なまえ？」

少女・ルルシアは子供らしいかわいい笑みを浮かべた。リリイも子供に名前をつける母親のようにルルシアを抱きくるくる回っている。

「あの、リイ？そろそろ・・・下ろしたら？？」

「え？だつて、このこ・・・かわいい！」

「いや、そういうのいいから・・・」

リラは少しあきれたように言う。リリイは、ルルシアに何か聞いているようだ。

「リラ！近くに水あるとこ知ってるって！！」

「つてか・・・ルルシアの格好どうにかしたら？水はその後ね？」

「え・・・？きゃあ！布まいてるだけ！？」

リリイは、リラに言われてはじめて気づいたらしい。そうだ、ルルシアは布を体に巻いてるだけだったのだ。見るからに綺麗な少女が曇ったガラスのようだ。

「あ・・・！じゃあ、これ・・・」

リリイは、腰に括り付けているポーチから何やら数字が書いてある人差し指の第一関節くらいのカプセルを取り出した。そして、親指と人差し指でプチッとつぶした。ブワツという音がして服の形に変形した。

「はい、これ着て？」

「・・・きる？」

リリイはあ・・・と声を漏らしてリラに一言言つて洞窟の中へ入つていった。

「ルルシアは、着替え方知らなかったのか・・・」

リラは、独り言のようにつぶやいた。しばらくして二人が出てきたリリイがにこつと笑う。ルルシアもつられてにこつと笑った。リリイは妹ができたみたいでうれしいらしい。

「じゃあ、ルルシア・・・なんか長いな・・・うーん」

「ルシア！ルシアでいいでしょ？」

「ま、いつか。じゃあ、ルシアが言つてた水がある所にいこう！！」

「行っ—お—」

第一話〰️二人の旅〰️（後書き）

小説は、中一の時に友達の真似で書き始めました。あまり、面白くないですが、読んでくださってありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7562c/>

二つに割れた星 ~ Sweet trip ~

2011年1月16日04時54分発行